ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔ
（通報機能対応バージョン）
補足説明書

第３版

平成２３年１１月

株式会社 M.C.S

〒060-0063　札幌市中央区南３条西８丁目７番地４　遠藤ビル５Ｆ
TEL　011-596-0201　FAX　011-596-0234
URL http://www.mcs-fs.com　E-mail info@mcs-fs.com

はじめに

本説明書は、データロガ－　ＦＡＳＴシリーズの通報機能対応バージョン『ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔ』をご利用いただく際の補足説明書です。
ご使用の前に、ＦＡＳＴシリーズの取扱説明書と合わせてよくお読みいただき、正しくお使いください。
また、ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔをご利用いただくには、ＦＡＳＴ本体の通信条件などの設定を行うための専用ソフトである「ロガーソフト for ＦＡＳＴシリーズ」が必要です。
ロガーソフト for ＦＡＳＴシリーズをご準備いただいていない場合やＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔ対応前のバージョン（Ver4.00 より以前）をお持ちお客様につきましては、弊社 Web サイトよりダウンロードの上、インストールください。
なお、通信アダプタの使用方法につきましては、各製品に付属の取扱説明書をご覧ください。

※この説明書は必ず保管してください。

目次

１ 特長 １

２ 本体外観、各部説明 ２

２.１ ＦＡＳＴ 通報機能対応バージョン外観 ２
２.２ ＦＡＳＴ－Ｍｕｌｔｉ 通報機能対応バージョン外観 ３

３ 通信アダプタの設定 ４

３.１ ＦＯＭＡユビキタスモジュール専用アダプタセット(ＦＯＭＡ用) ４
３.２ ＤｏＰａ Ｍｏｂｉｌｅ Ａｒｋ ９６０１Ｄ(ＤｏＰａ用) ４
３.３ ＵＭ－ＡＤＰ・Ｄ(ＤｏＰａ用) ４
３.４ Ｄ２－Ｋ’ｓ１ＥＬ(ＣＤＭＡ １Ｘ用) ５

４ ＦＡＳＴ－ＲＥＰＯＲＴの設定 ６

４.１ メール送信 ６
(１) FOMA ６
(２) MobileArk／MODEM １０
(３) KDDI １２
４.２ ラピキャス（プランＡ） １４
(１) FOMA １４
(２) KDDI １８

５ 測定開始手順 ２０

５.１ ＦＡＳＴと通信アダプタの接続 ２０
５.２ 電源の投入 ２０
５.３ 測定の開始 ２０
５.４ テストメールの送信 ２０

６ 送信メール内容 ２１

６.１ 通報メール ２１
６.２ 定期メール ２１
６.３ テストメール ２２
６.４ データフォーマット ２２

１ 特長

◇ 接点状態の変化や測定値の上下限値超過を監視し、最大６箇所に通報メールを送信

◇ 異常発生時および設定間隔により測定データを記録可能

◇ 記録したデータはメール添付ファイルにより、遠隔回収が可能

◇ 通信アダプタとＲＳ２３２Ｃインターフェースで接続する方式のため、
設置場所の状況に合わせ、通信事業者（通信回線）や通信アダプタを選択可能

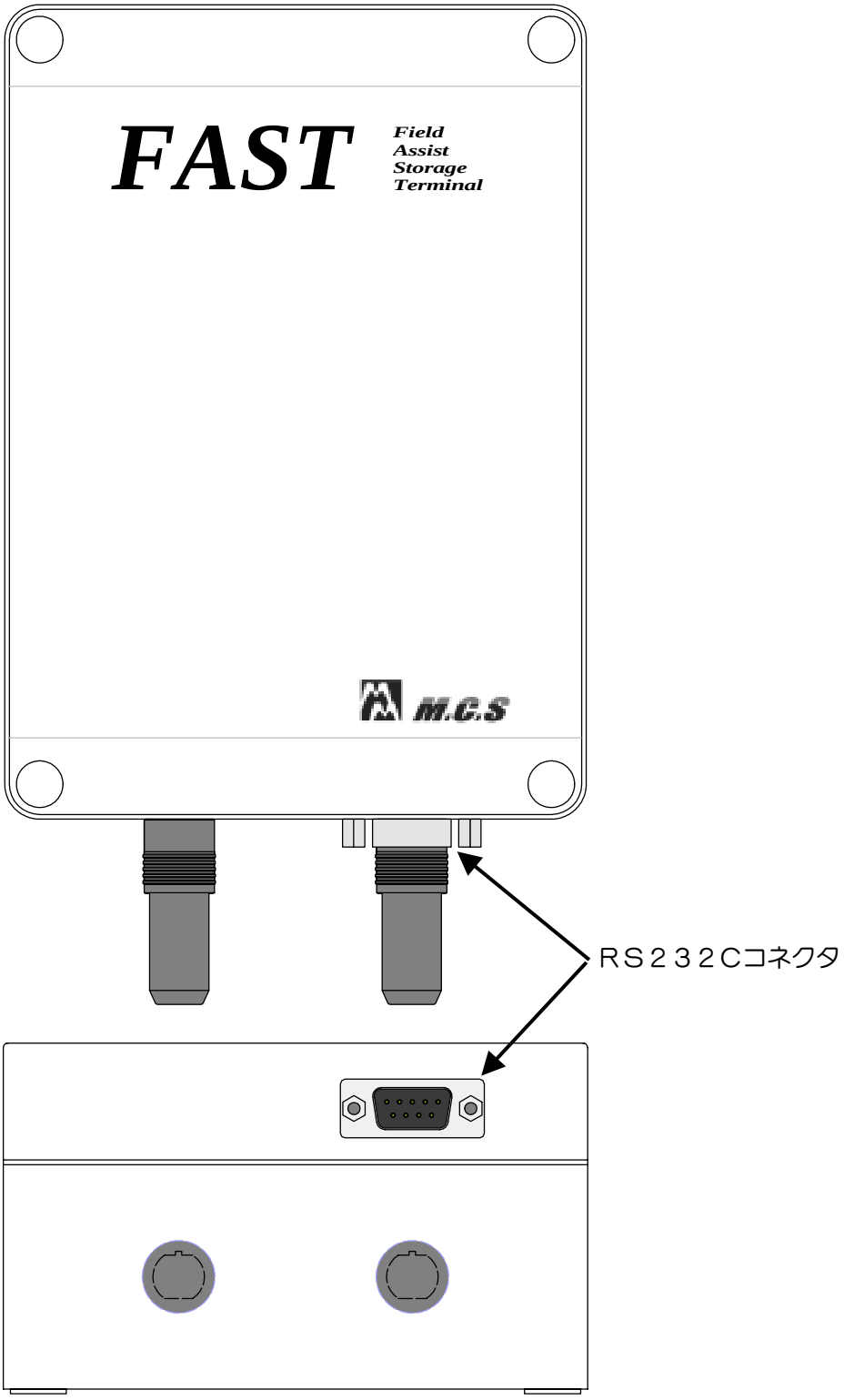
◇ 下記の通信回線をサポート(該当する回線に合わせた通信アダプタが必要)
ＮＴＴドコモ(FOMA/DoPa)、ＫＤＤＩ(CDMA 1x)、一般公衆回線

◇ 月々のランニングコストは約１，３００円～と安価で遠隔監視システムを構築可能
※ランニングコストは通信回線、運用条件により異なります

２ 本体外観、各部説明

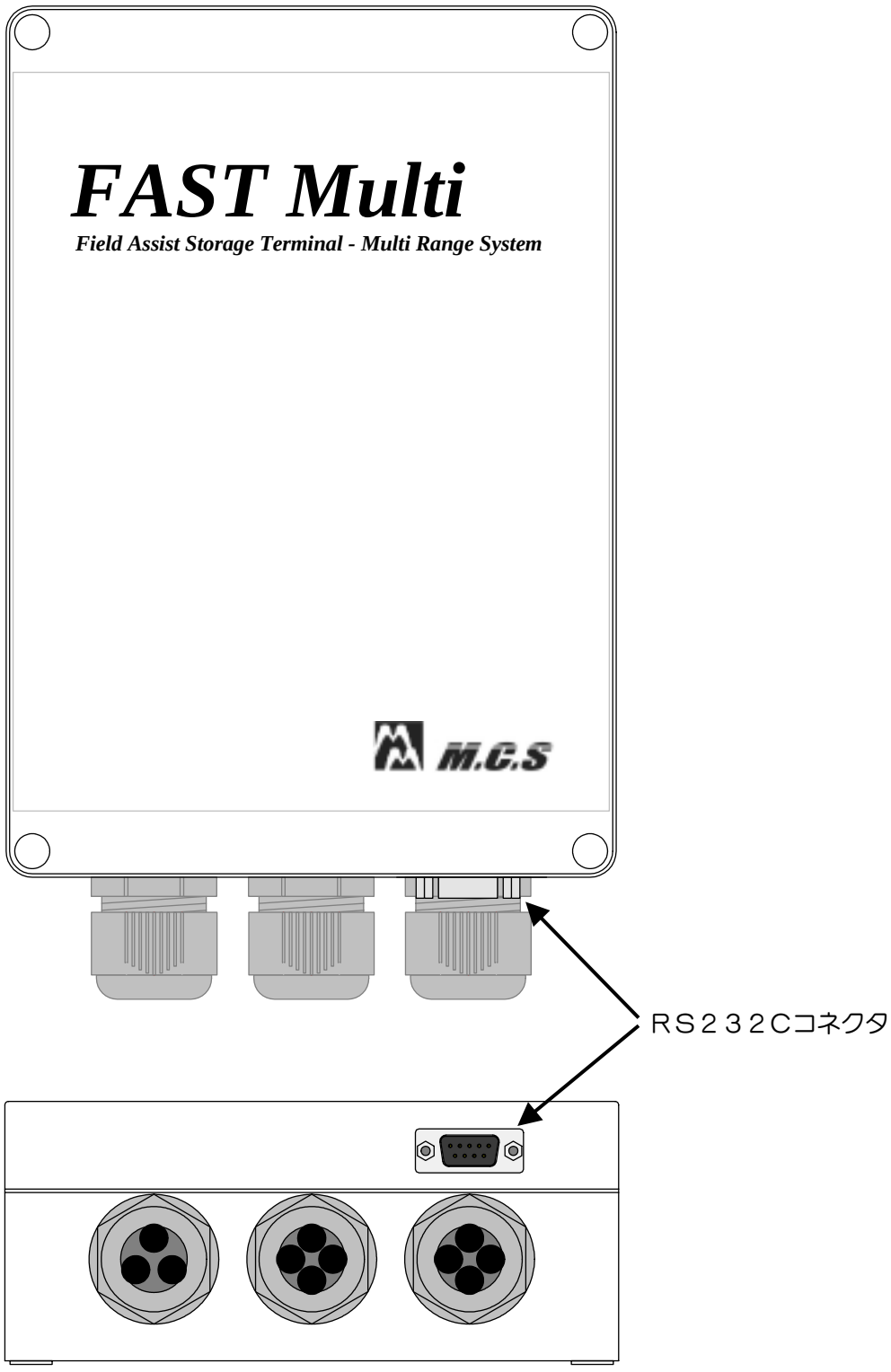
２.１ ＦＡＳＴ　通報機能対応バージョン外観

標準タイプと通報機能対応バージョンの違いは、蓋をした状態で通信アダプタとＲＳ２３２Ｃケーブルで接続するため、Ｄ－ＳＵＢ９ピンオスコネクタをケース外側に増設している点です。（下図はＦＡＳＴ－ＰＴ２－ＲＥＰの例です）



2.2 ＦＡＳＴ－Ｍｕｌｔｉ　通報機能対応バージョン外観

ＦＡＳＴ－Ｍｕｌｔｉでの標準タイプと通報機能対応バージョンでの違いも、ＦＡＳＴと同様、蓋をした状態で通信アダプタとＲＳ２３２Ｃケーブルで接続するためのＤ－ＳＵＢ９ピンオスコネクタをケース外側に増設している点です。
（下図はアナログ８チャネル、パルス２チャネルのＦＡＳＴ－Ｍ８Ｐ－ＲＥＰの例です）



3 通信アダプタの設定

ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔと接続して運用を開始する前に、通信アダプタの設定を行います。
通信アダプタによって設定内容が異なりますので、通信アダプタ別に設定内容を説明します。
なお、通信アダプタによっては本説明書で詳細を説明できない部分がありますので、各通信アダプタの取扱説明書を合わせてご覧ください。

3.1 ＦOMAユビキタスモジュール専用アダプタセット(ＦOMA用)

ＮＴＴドコモ様のＦOMAパケット通信網向けの通信アダプタ『ＦOMAユビキタスモジュール専用アダプタセット』を使用する場合、ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔとの通信速度を 19200bps に設定する必要があります。
通信速度の設定は、通信アダプタ上の「DIP スイッチキャップ」を開けて、DIP スイッチを切り替えることで設定します。
19200bps に設定するには、スイッチ１～３を全てONにします。
19200bps は初期設定であるので、購入時のままであれば設定を行う必要はありませんが、運用を開始する前にスイッチの設定を確認されることをお薦めします。
詳しくは、『ＦOMAユビキタスモジュール専用アダプタセット　取扱説明書』をご覧ください。

3.2 ＤoＰa Ｍoｂｉｌｅ Ａｒｋ ９６０１D(ＤoＰa用)

ＮＴＴドコモ様のＤoＰaパケット通信網向け通信ダプタ『ＤoＰa Ｍoｂｉｌｅ Ａｒｋ ９６０１Ｄ』を使用する場合、当該製品は通信速度は自動認識のため特に設定すべき内容はありません。

3.3 UM－ＡＤＰ・D(ＤoＰa用)

ＮＴＴドコモ様のＤoＰaパケット通信網向けの(株)九州テン社の通信アダプタ『UM－ＡＤＰ・Ｄ』を使用する場合、設定 DIP スイッチを下記の通り設定してください。

スイッチ１：｝DTE 通信速度設定　　１，２とも ON：19200bps
スイッチ２：｝
スイッチ３：データ長設定　　ON(8 bit)
スイッチ４：ストップビット設定　　ON(1 bit：但し設定は無効)
スイッチ５：パリティビット設定　　ON(奇数：但し設定は無効)
スイッチ６：自己診断設定　　OFF(無し)
スイッチ７：内部パラメータ設定　　OFF(無し)
スイッチ８：保守設定　　ON(通常時)
詳しくは、『UM－ＡＤＰ・Ｄ　取扱説明書』をご覧ください。

3.4 Ｄ２－Ｋ’ｓ１ＥＬ(ＣＤＭＡ １Ｘ用)

ＫＤＤＩ様のＣＤＭＡ １ｘパケット通信網に対応した安川情報システム(株)社の『Ｄ２－Ｋ’ｓ１ＥＬ』を使用する場合、ディップスイッチを下記の通り設定してください。

スイッチ１：UART2 モード		OFF
スイッチ２： スイッチ３： スイッチ４： スイッチ５：	予約	OFF 固定
スイッチ６：LED 点灯禁止		OFF(LED 点灯許可) ※どちらの設定でも構いませんが、点灯禁止に設定するとLEDによる動作確認ができません

詳しくは、『Ｄ２－Ｋ’ｓ１ＥＬ　取扱説明書』をご覧ください。

４ ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔの設定

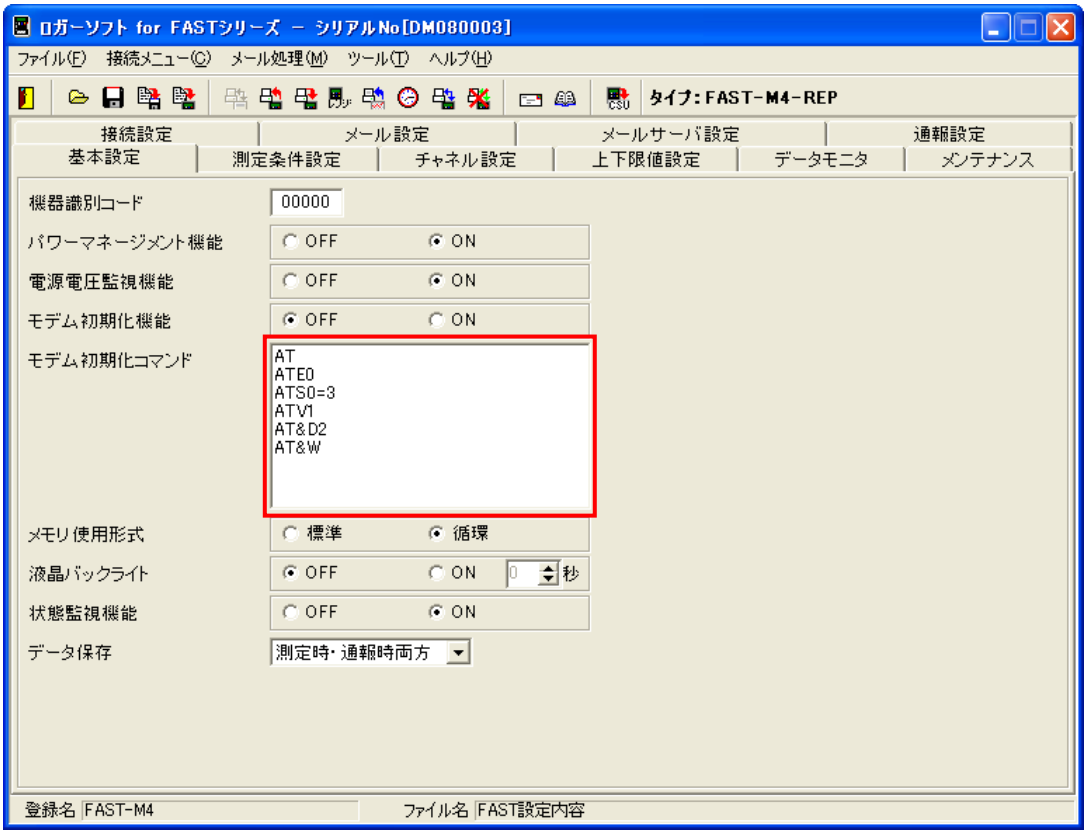
ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔが対応する通信方式は、「メール送信」および「ラピキャス(プラン A)」のいずれかです。
どちらもメールによる監視通報を目的とした利用が可能ですが、「メール送信」はインターネット接続を含むプロバイダサービスについて、NTT ドコモ様の moperaU、KDDI 様の au.NET や一般のプロバイダサービスにおけるダイヤルアップ接続を対象にしたなど、全般的な特定のプロバイダサービスのの利用を前提としたものであり、一方「ラピキャス(プラン A)」は、パナソニック電工インフォメーションシステムズ様のラピキャスの利用を前提としたものです。
通信方式や通信アダプタにより、ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔの設定項目が変わりますので、通信方式別・通信アダプタ別にＦＡＳＴ専用ソフトの設定画面に沿って設定内容を説明します。
なお、各設定項目については、ＦＡＳＴ専用ソフトの操作説明書に詳しい解説がありますので、そちらをご覧ください。

４.１ メール送信

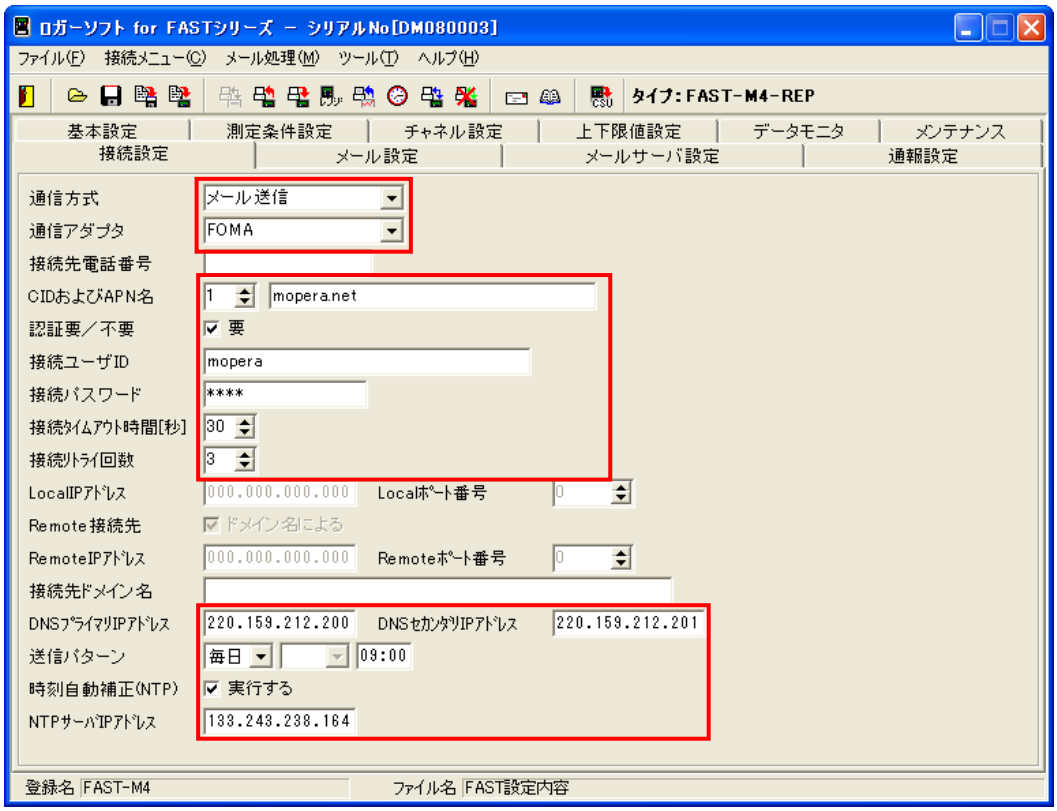
(1) FOMA

NTT ドコモ様の FOMA パケット通信網を利用する場合の設定について説明します。
FOMA パケット通信網を利用する場合、プロバイダが FOMA パケット通信用の APN を用意していることが条件となります。
下記例では、プロバイダとして NTT ドコモ様提供の moperaU を利用した場合の設定を示しています。

最初に基本設定画面でモデム初期化コマンドを下記の通り設定します。
モデム初期化機能については、OFF/ON どちらの設定でも構いません。



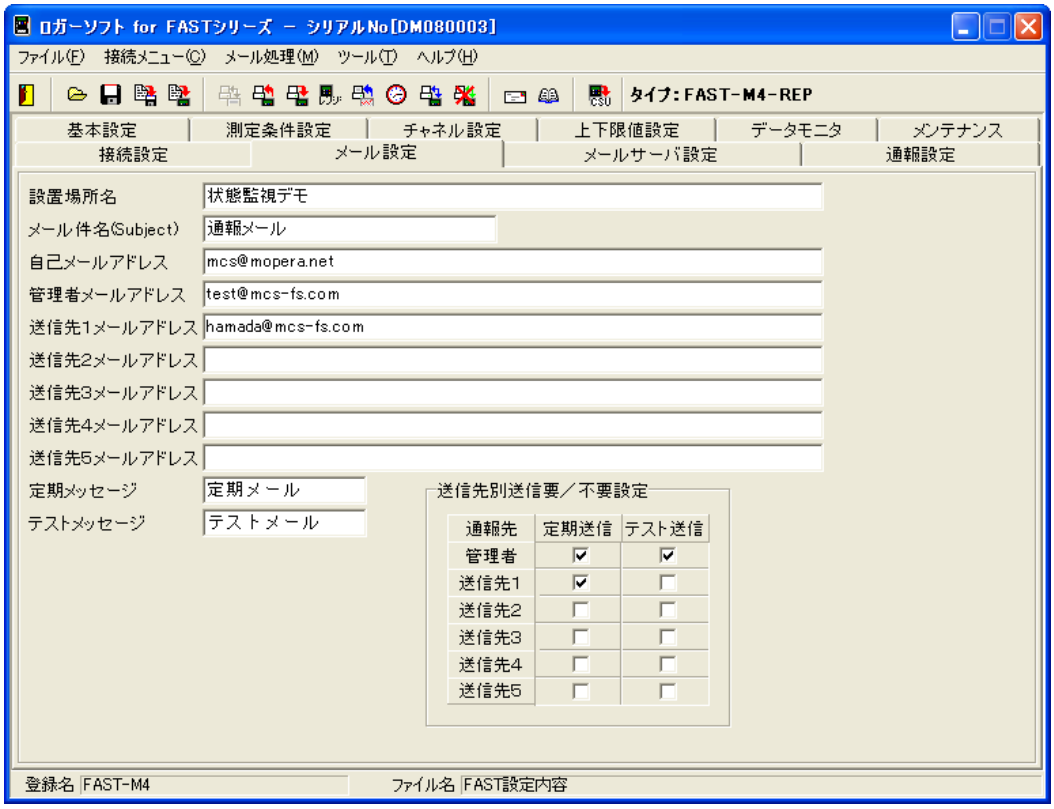
次に、通信条件設定画面を説明します。



通信方式は『メール送信』、通信アダプタは『FOMA』を選択します。
以降の設定はプロバイダにより設定内容が変わります。
FOMA パケット通信網では接続先電話番号の代わりに CID と APN(ACCESS POINT NAME)を設定しますので、プロバイダより指定される APN 名を設定します。
moperaU の場合は『mopera.net』を設定します。
CID は 1～10 のいずれかを選択します。
認証要／不要は必ずチェックし、プロバイダより提示される接続時のユーザ ID やパスワードを設定します。
なお、moperaU の場合はユーザ ID およびパスワードはどのような値でも構わないので、任意の値を設定してください。（例ではユーザ ID を mopera、パスワードを pass に設定）
DNS プライマリ IP アドレス、DNS セカンダリ IP アドレスはプロバイダから指定されたものを設定します。
送信パターンは、測定データを送信するタイミングを設定します。
時刻自動補正(NTP)は、送信データを送信する前にＦＡＳＴ内蔵時計の時刻合わせを行う必要があるときにチェックし、NTP サーバ IP アドレスを設定します。
NTP サーバ IP アドレスは、グローバル IP で設定してください。
時刻自動補正を行う場合、階層レベル(Stratum)が１の NTP サーバを設定してください。
　例）独立行政法人 情報通信研究機構（IP アドレス　133.243.238.164）
※階層レベルが２以下の NTP サーバでは、時刻補正が正しく行われない場合があります。

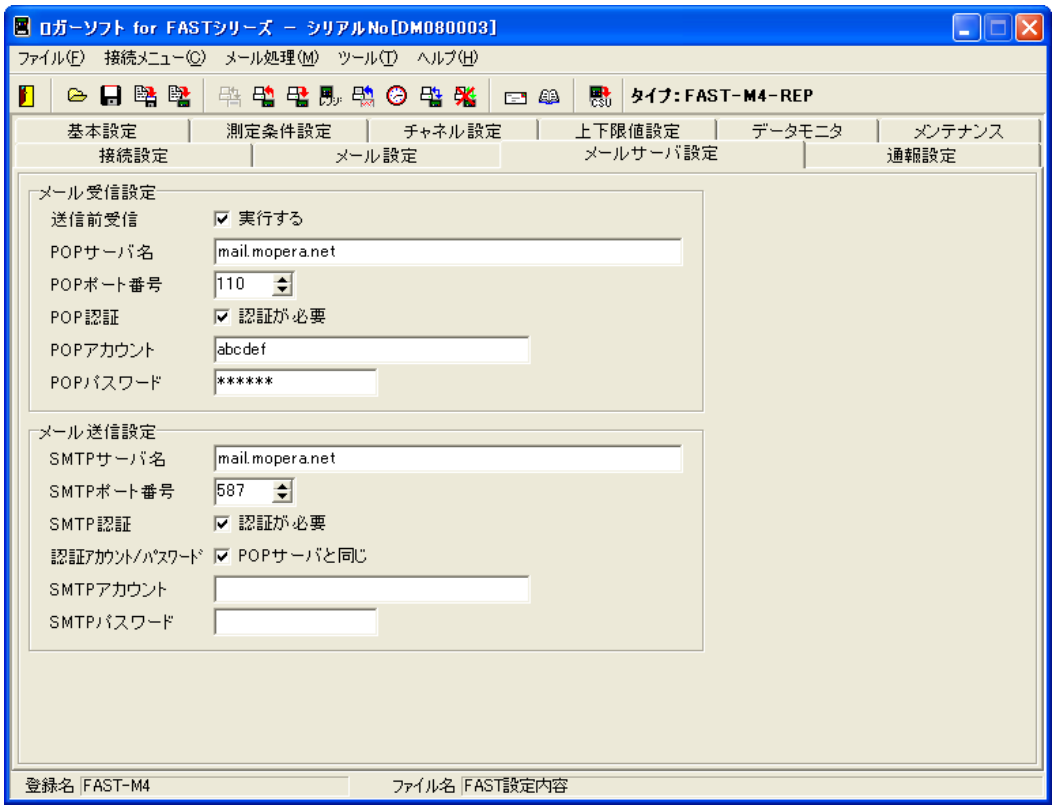
上記設定例は、プロバイダとして moperaU を利用した場合の一例です。
他のプロバイダをご利用される場合、プロバイダからの送付資料などをもとに FOMA パケット通信用の APN 名、接続ユーザ ID とパスワード、DNS プライマリ IP アドレス／DNS セカンダリ IP アドレスを設定してください。

次に、メール設定画面を説明します。



設置場所名は、メール受信時に送信元を識別するための名称を設定します。
メール件名は、ＦＡＳＴからの測定データメールであることを識別するための名称を設定します。
自己メールアドレスは、ＦＡＳＴのメールアカウントを設定します。ここで設定したメールアドレスが送信元のメールアドレスとなります。
管理者メールアドレスおよび送信先１～５メールアドレスには、測定データを送信するメールアドレスを設定します。
定期送信名およびテスト送信名は、メール本文内に記載されるメールの種別を識別するための文字列を設定します。
送信先別送信要／不要は、メール種別毎にメール送信対象とするか否かを設定します。
従って、メールの送信先とする場合は、メールアドレスを設定した上で本項目をチェックする必要があります。

次に、メールサーバ設定画面の説明です。

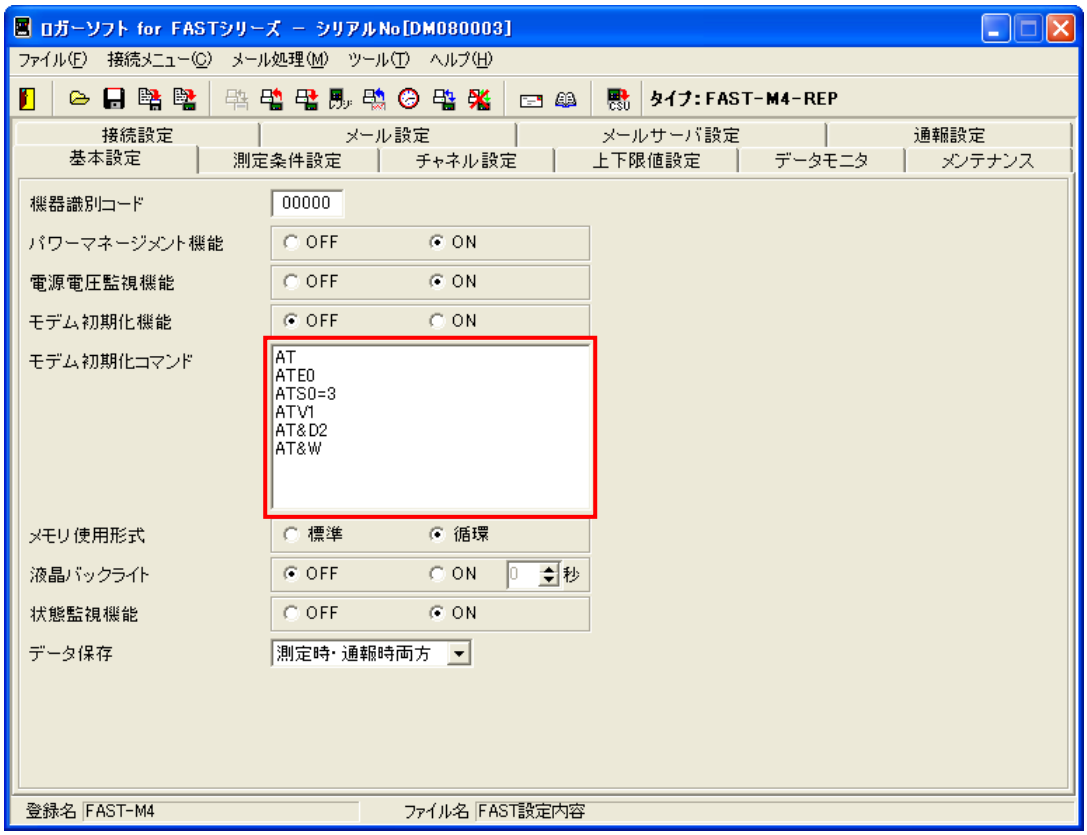


本画面の設定項目は、ＦＡＳＴのメールアカウントに対するメールサーバの設定を行うもので、プロバイダから提供される契約内容に従って設定します。
moperaU サービスを利用する場合、SMTP 認証が必須ですので、SMTP 認証の項目をチェックします。認証アカウント／パスワードは「POP サーバと同じ」をチェックします。
SMTP ポート番号は標準の 25 とサブミッションポートの 587 のいずれかを設定します。
プロバイダとして moperaU を利用し、メール送信は別に用意した SMTP サーバを利用する場合や、他プロバイダの SMTP サーバを利用する場合においては、利用する SMTP サーバの管理者やプロバイダから提示される設定内容に従って設定してください。

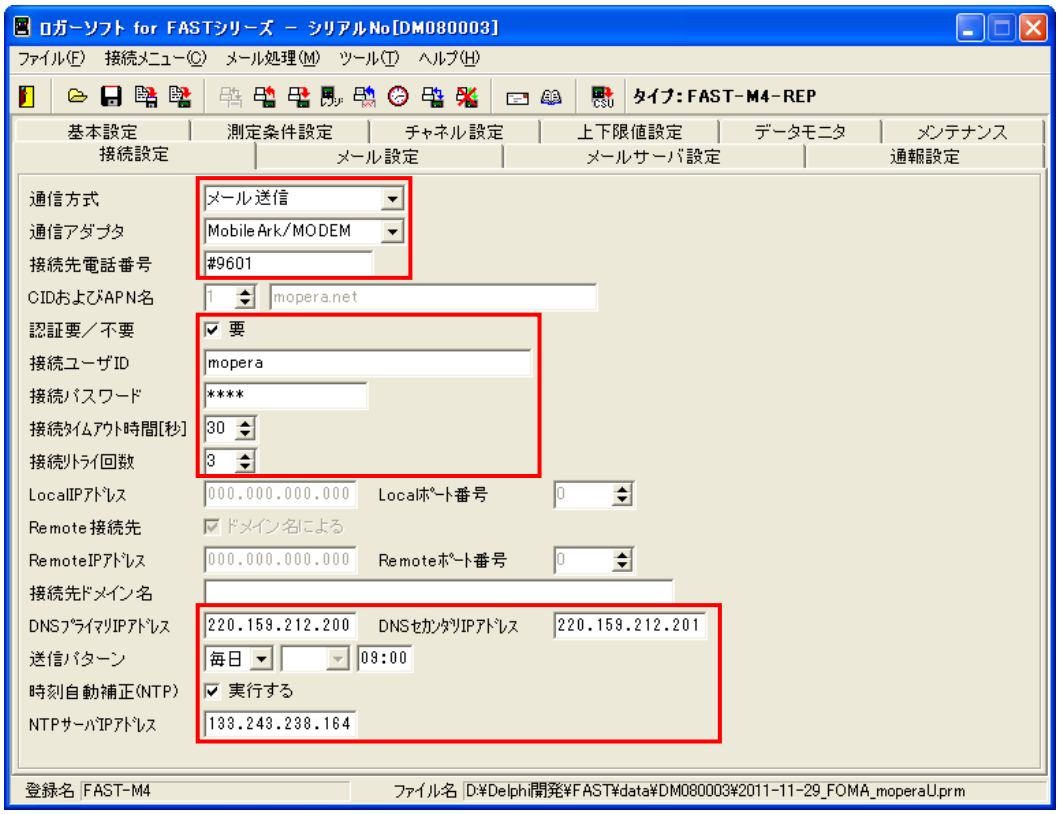
(2) MobileArk／MODEM

NTT ドコモ様の DoPa 網や NTT 様のアナログ回線／光電話回線などを介する場合の設定について説明します。
DoPa 網を利用する場合、プロバイダが DoPa をサポートしていることが条件となります。
下記例では、プロバイダとして NTT ドコモ様提供の moperaU を利用した場合の設定を示しています。

最初にモデム初期化コマンドを下記の通り設定します。
モデム初期化機能については、OFF/ON どちらの設定でも構いません。



次に、通信条件設定画面の説明です。



通信方式は『メール送信』、通信アダプタは『MobileArk/MODEM』を選択します。
以降の設定はプロバイダにより設定内容が変わります。
moperaU を利用して DoPa 網に接続する場合、接続先電話番号に『#9601』を設定します。
一般のプロバイダやモデムを利用しての電話回線経由の接続の場合は、プロバイダより提示されたアクセスポイントの電話番号を設定します。
認証要／不要を必ずチェックし、プロバイダより提示される接続時のユーザ ID やパスワードを設定します。
なお、moperaU の場合はユーザ ID およびパスワードはどのような値でも構わないので、任意の値を設定してください。（例ではユーザ ID を mopera、パスワードを pass に設定）
DNS プライマリ IP アドレス、DNS セカンダリ IP アドレスはプロバイダから指定されたものを設定します。
送信パターンは、測定データを送信するタイミングを設定します。
時刻自動補正(NTP)は、送信データを送信する前にＦＡＳＴ内蔵時計の時刻合わせを行う必要があるときにチェックし、NTP サーバ IP アドレスを設定します。
NTP サーバ IP アドレスは、グローバル IP で設定してください。
時刻自動補正を行う場合、階層レベル(Stratum)が１の NTP サーバを設定してください。
　例）独立行政法人 情報通信研究機構（IP アドレス　133.243.238.164）
※階層レベルが２以下の NTP サーバでは、時刻補正が正しく行われない場合があります。

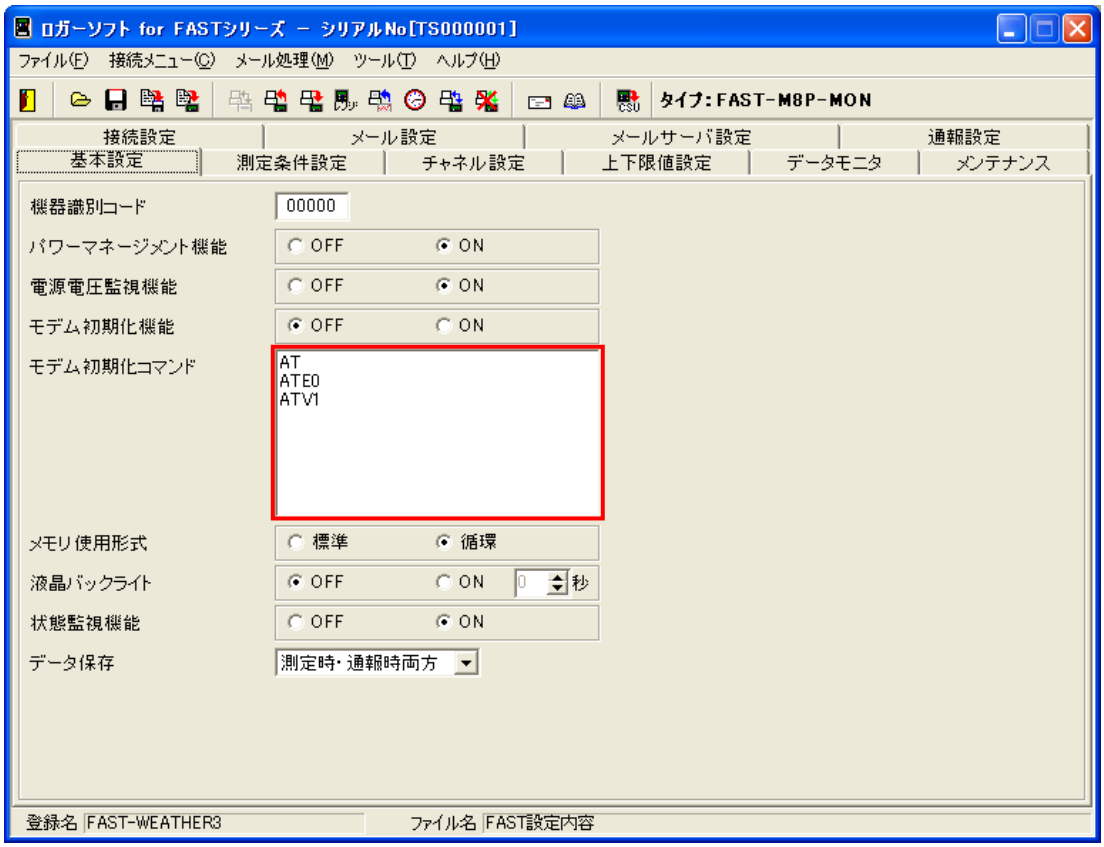
上記設定例は、プロバイダとして moperaU を利用した場合の一例です。
他のプロバイダをご利用される場合、プロバイダからの送付資料などをもとに、DoPa または一般回線用の接続先電話番号、接続ユーザ ID とパスワード、DNS プライマリ IP アドレス／DNS セカンダリ IP アドレスを設定してください。

メール設定画面およびメールサーバ設定画面は FOMA の設定例と同様に設定してください。

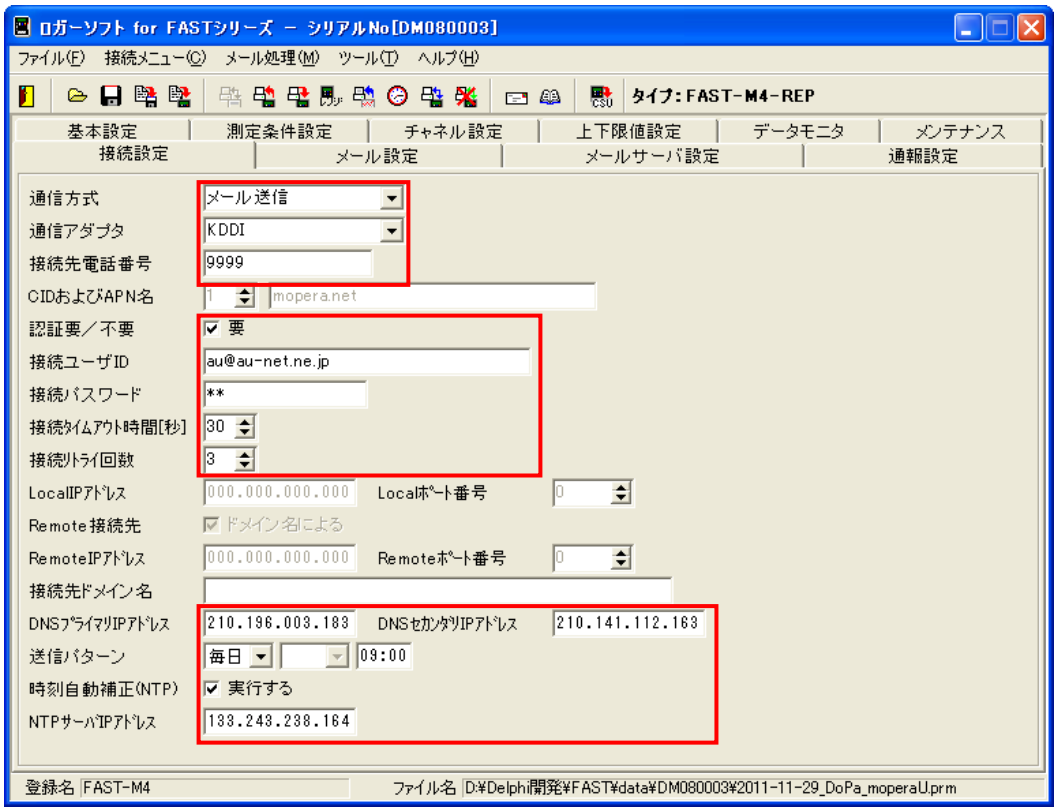
(3) KDDI

KDDI 様の CDMA 1X を介する場合の設定について説明します。
インターネットへの接続のため、CDMA 1X 網に対応したプロバイダか KDDI 様提供のインターネット接続サービス『au.NET』を利用することが前提となります。
ただし、au.NET ではメールアカウントの提供はないため、他社のメールアカウントサービスを利用する必要があります。
下記例では、インターネットへの接続は au.NET を利用し、メールアカウントを自社のアカウントを使用した場合の設定を示しています。

最初にモデム初期化コマンドを下記の通り設定します。
なお、モデム初期化機能は OFF のままにしてください。



次に、通信条件設定画面の説明です。



通信方式は『メール送信』、通信アダプタは『KDDI』を選択します。
以降の設定はプロバイダにより設定内容が変わります。
au.NET を利用して CDMA 1X 網に接続する場合、接続先電話番号に『9999』を設定します。（１文字以上の任意の文字で可）
一般のプロバイダを経由した接続の場合は、プロバイダより提示されたアクセスポイントの電話番号を設定します。
認証要／不要を必ずチェックし、プロバイダより提示される接続時のユーザ ID やパスワードを設定します。
au.NET の場合はユーザ ID は『au@au-net.ne.jp』、パスワードは『au』に設定します。
DNS プライマリ IP アドレス、DNS セカンダリ IP アドレスはプロバイダから指定されたものを設定します。
送信パターンは、測定データを送信するタイミングを設定します。
時刻自動補正(NTP)は、送信データを送信する前にＦＡＳＴ内蔵時計の時刻合わせを行う必要があるときにチェックし、NTP サーバ IP アドレスを設定します。
NTP サーバ IP アドレスは、グローバル IP で設定してください。
時刻自動補正を行う場合、階層レベル(Stratum)が１の NTP サーバを設定してください。
　例）独立行政法人 情報通信研究機構（IP アドレス　133.243.238.164）
※階層レベルが２以下の NTP サーバでは、時刻補正が正しく行われない場合があります。

上記設定例は、プロバイダサービスとして au.NET を利用した場合の一例です。
他のプロバイダをご利用される場合、プロバイダからの送付資料などをもとに、CDMA 1X への接続設定、接続ユーザ ID とパスワード、DNS プライマリ IP アドレス／DNS セカンダリ IP アドレスを設定してください。

KDDI 様においては、au.NET を利用することで特別な契約なしにインターネットへ接続できますが、ＮＴＴドコモ様の moperaU のようなメールアカウントを払い出ししてもらえるサービスがありません。
このため、メールアカウントは自前でご用意いただくか、プロバイダとの契約があれば、メールアカウントを追加契約してください。
また、au.NET ではメール送信において SMTP 認証が必須であるため、外部の SMTP サーバを利用される場合は、SMTP 認証に対応した SMTP サーバでなければなりません。

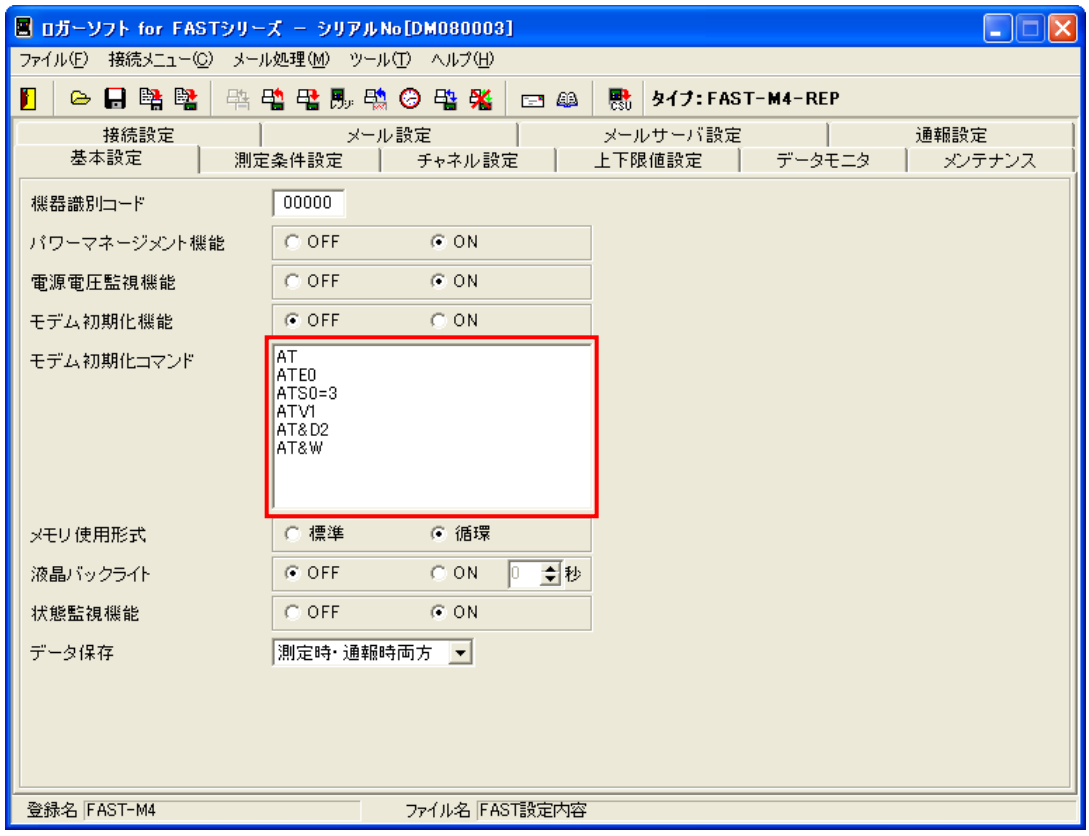
４.２ ラピキャス（プランＡ）

ラピキャス（プランＡ）は、パナソニック電工インフォメーションシステムズ様のネットワークプロバイダサービス「ラピキャス」のメール送受信サービスに限定した「プランＡ」を利用して、予め設定されたメールアドレスに対しメール送信する方式です。
ラピキャス（プランＡ）をご契約いただくと、ＦＡＳＴ用にメールアカウントが１つ払い出しされますので、別途メールアカウントを用意する必要はありません。
設定内容は利用する通信アダプタ（通信回線）によって設定が異なりますので、各通信アダプタ別に説明します。
ラピキャスご契約手続き完了後にパナソニック電工インフォメーションシステムズ様より提供される「ラピキャス登録完了通知書」をもとに登録を行います。

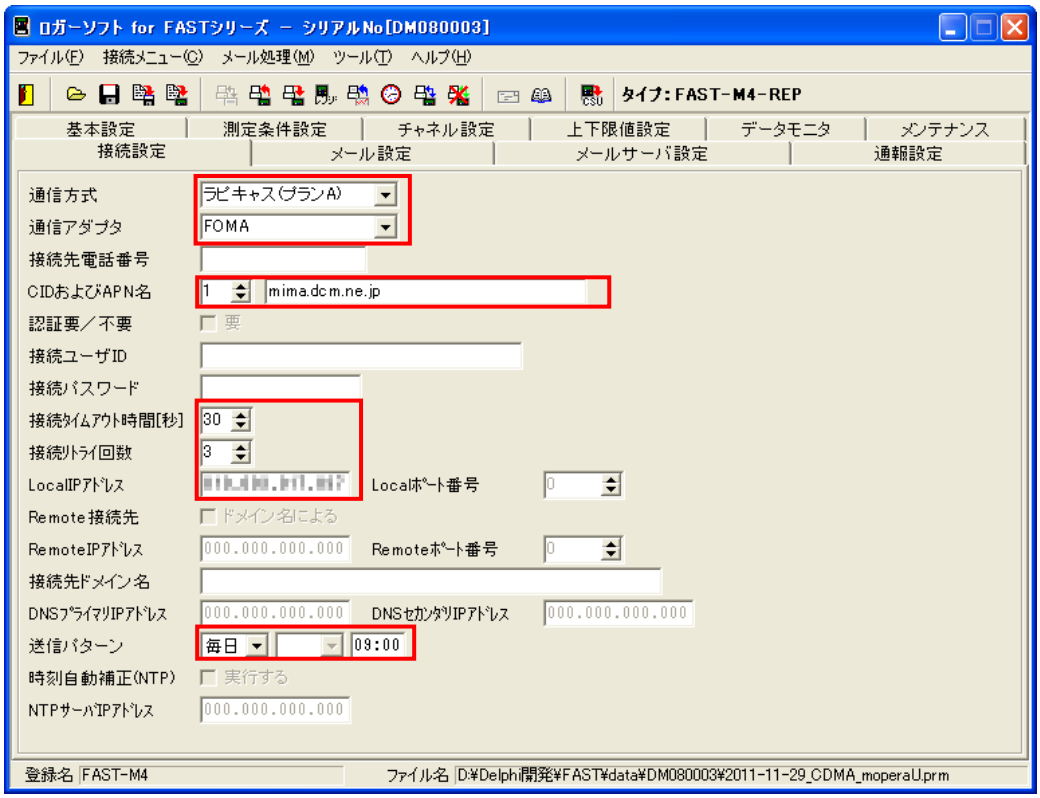
(1) FOMA

NTT ドコモ様の FOMA パケット通信網を利用する場合の設定について説明します。

最初に基本設定画面でモデム初期化コマンドを下記の通り設定します。
モデム初期化機能については、OFF/ON どちらの設定でも構いません。



次に、通信条件設定画面を説明します。



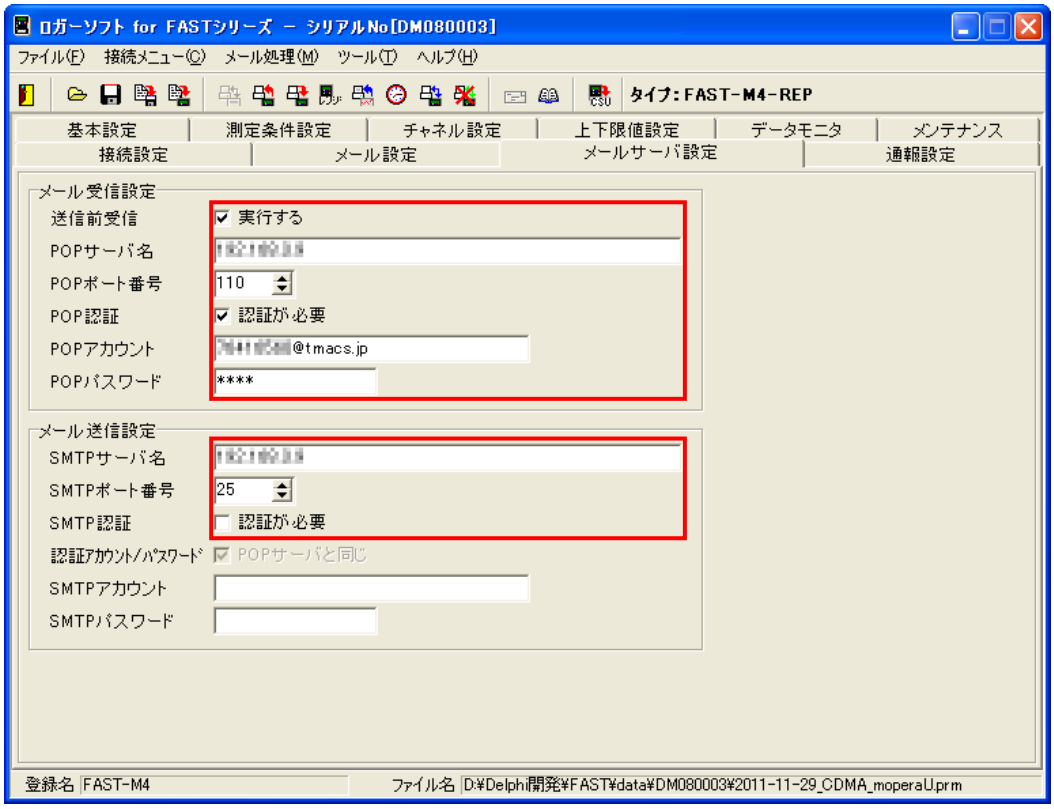
通信方式は『ラピキャス(プラン A)』、通信アダプタは『FOMA』を選択します。
FOMA パケット通信網では接続先電話番号の代わりに CID と APN(ACCESS POINT NAME)を設定します。
APN には、『mima.dcm.ne.jp』を設定します。
CID は 1～10 のいずれかを選択します。
LocalIP アドレスには、ラピキャス登録完了通知書の『IP アドレス』に記載された値を設定します。
送信パターンは、測定データを送信するタイミングを設定します。

なお、ラピキャス(プラン A)では、ラピキャスネットワークの制限から時刻自動補正(NTP)機能は利用できません。

次に、メール設定画面を説明します。

設置場所名は、メール受信時に送信元を識別するための名称を設定します。
メール件名は、ＦＡＳＴからの測定データメールであることを識別するための名称を設定します。
自己メールアドレスには、ラピキャス登録完了通知書の『通信機用ラピキャス ID』に記載された内容を設定します。
管理者メールアドレスおよび送信先１～５メールアドレスには、測定データを送信するメールアドレスを設定します。
定期送信名およびテスト送信名は、メール本文内に記載されるメールの種別を識別するための文字列を設定します。
送信先別送信要／不要は、メール種別毎にメール送信対象とするか否かを設定します。
従って、メールの送信先とする場合は、メールアドレスを設定した上で本項目をチェックする必要があります。

次に、メールサーバ設定画面の説明です。

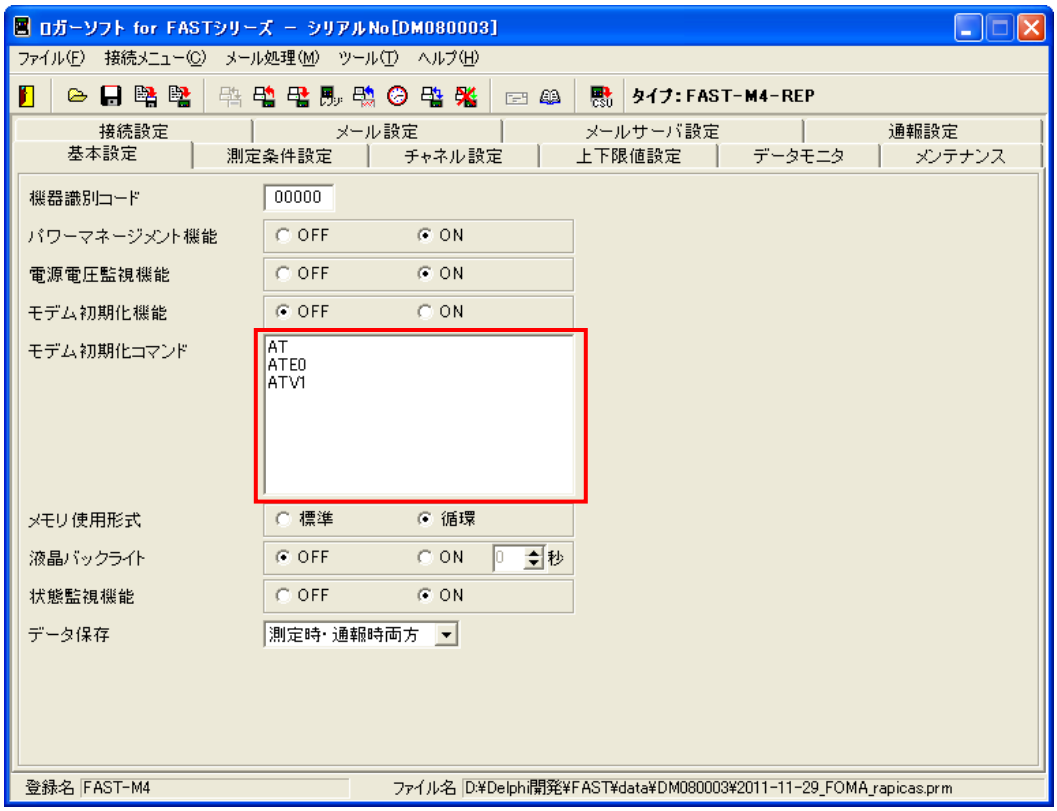


本画面の項目は、ＦＡＳＴのメールアカウントに対するメールサーバの設定を行います。
POP サーバ名には、ラピキャス登録完了通知書の『POP サーバアドレス』に記載された内容を設定します。
POP ポート番号には、１１０を設定します。
POP 認証の項にチェックを付け、POP アカウントと POP パスワードを設定します。
POP アカウントには、ラピキャス登録完了通知書の『通信機用ラピキャス ID』に記載された内容を設定します。
POP パスワードには、ラピキャス登録完了通知書の『POP パスワード(暗証番号)』に記載された内容を設定します。
SMTP サーバ名には、ラピキャス登録完了通知書の『SMTP サーバアドレス』の項に記載された内容を設定します。
SMTP ポート番号には、２５を設定します。
SMTP 認証は不要なのでチェックははずします。
以降の SMTP アカウントや SMTP パスワードなどの項目は設定不要です。

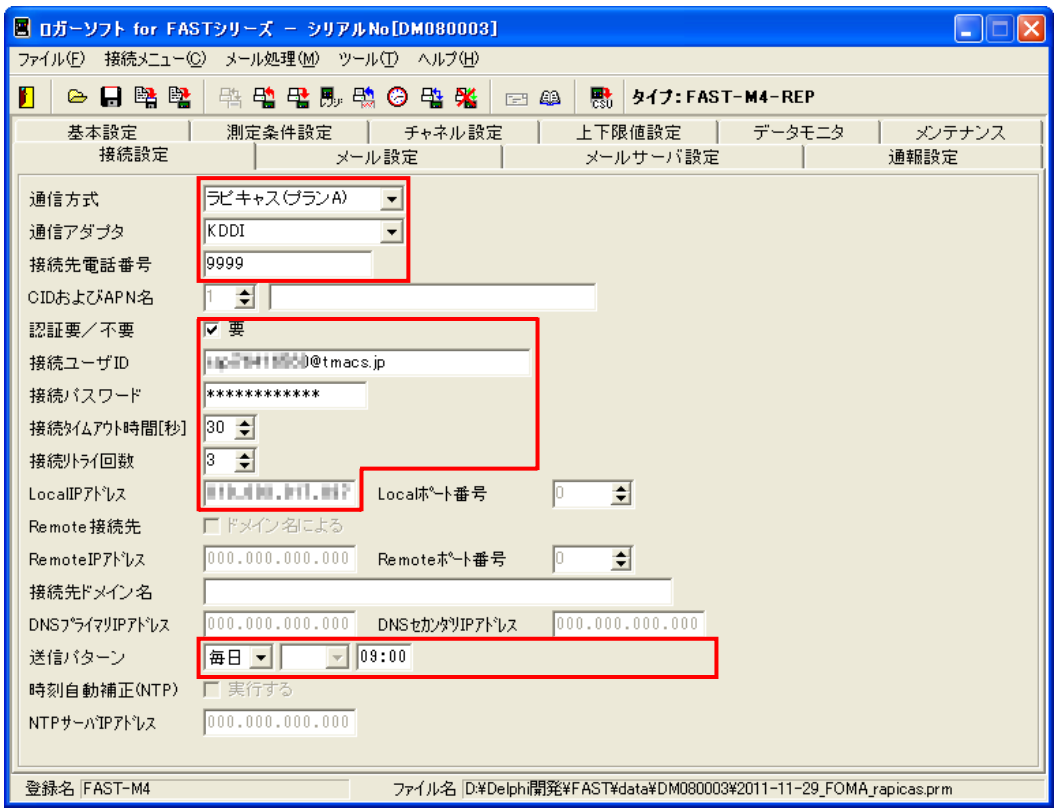
(**2**) KDDI

KDDI 様の CDMA1X を利用する場合の設定について説明します。

最初にモデム初期化コマンドを下記の通り設定します。
なお、モデム初期化機能は OFF のままにしてください。



次に、通信条件設定画面の説明です。



通信方式は『ラピキャス(プラン A)』、通信アダプタは『KDDI』を選択します。
接続先電話番号には、9999 を設定します。
認証要／不要を必ずチェックし、接続ユーザ ID と接続パスワードを設定します。
接続ユーザ ID には、ラピキャス登録完了通知書の『接続ユーザ ID』+『@』+『接続先アドレス(ドメイン)』の組み合わせで設定します。（例　rapi12345678@tmacs.jp）
接続パスワードには、ラピキャス登録完了通知書の『接続パスワード』に記載された内容を設定します。
LocalIP アドレスには、ラピキャス登録完了通知書の『IP アドレス』に記載された値を設定します。
送信パターンは、測定データを送信するタイミングを設定します。

なお、ラピキャス(プラン A)では、ラピキャスネットワークの制限から時刻自動補正(NTP)機能は利用できません。

メール設定画面およびメールサーバ設定画面は FOMA の設定例と同様に設定してください。

5 測定開始手順

5.1 ＦＡＳＴと通信アダプタの接続

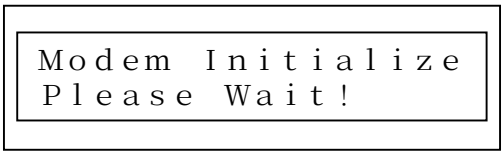
通信アダプタの設定およびＦＡＳＴの設定を終了したら、測定の開始を準備します。
ＦＡＳＴの設定のためＰＣとＦＡＳＴをＲＳ２３２Ｃケーブルで接続している場合は、そのケーブルをはずします。
次にＦＡＳＴと通信アダプタを適切なＲＳ２３２Ｃケーブルで接続します。
シリアル⇔イーサネット変換アダプタについては通信アダプタに付属のＲＳ２３２Ｃクロスケーブルで、その他の通信アダプタについてはＲＳ２３２Ｃストレートケーブルで接続します。

5.2 電源の投入

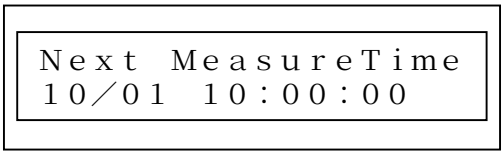
ＦＡＳＴの電源・測定スイッチを「ＳＥＴ」の位置にして、電源をＯＮします。
次に通信アダプタの電源スイッチをＯＮにします。

5.3 測定の開始

ＦＡＳＴの電源・測定スイッチを「ＭＥＡＳ」の位置にして測定を開始します。
このとき、通信方式が「メール送信」または「ラピキャス(プラン A)」に設定されているとき、液晶画面に下記の内容が表示され、通信アダプタへ設定コマンドが送出されます。



初期化が終了すると次回測定日時の表示画面に切り替わり、測定待機状態となります。



5.4 テストメールの送信

ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔでは、送信先として設定されたメールアドレスへテストメールを送信して、設定の確認を行うことができます。
テストメールを送信するには、５．１～５．３までの手順により測定が開始されていることが前提となります。
その状態でＳＥＴキーを３秒以上押し続けるとテストメール送信機能が動作し、電波状況などに問題がなければ約１～２分程度でメール送信が完了します。
メールサーバへアクセスして、テストメールが届いていることを確認してください。
テストメールが届けば、メール送信に関わる設定が正常であることが確認できます。
なお、メニュー表示中や測定データのＣＦカードへのコピー中は実行できません。
数十分経過してもテストメールが届かないときは、設定に何らかの誤りがある可能性がありますので、設定を確認してください。

６ 送信メール内容

ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔが各状態によって送信するメール内容について説明します。
メール送信時の件名については、各メールとも共通でＦＡＳＴ専用ソフトのメール設定タブ内の「メール件名(Subject)」の設定内容になります。

６.１ 通報メール

接点状態の変化や測定値が上下限値を超過した際などに送信される通報メールの内容について説明します。
通報メール内容は、監視種別によって異なりますので、監視種別毎に説明します。

【接点(正論理)または接点(負論理)】
送信日時：(通報メールの送信を開始した日時)
設置場所：(ＦＡＳＴ専用ソフトのメール設定タブ内「設置場所名」の設定内容)
シリアル No：(英数字８文字の本体シリアル No)
監視内容：(ＦＡＳＴ専用ソフトの通報設定タブ内チャネル別の「監視内容」の設定内容)
通報内容：(異常発生時または正常復帰時によって下記の内容になります)
　　(異常発生時) 警報が発生しました
　　(正常復旧時) 警報が復旧しました

【測定値】
送信日時：(通報メールの送信を開始した日時)
設置場所：(ＦＡＳＴ専用ソフトのメール設定タブ内「設置場所名」の設定内容)
シリアル No：(英数字８文字の本体シリアル No)
監視内容：(ＦＡＳＴ専用ソフトの通報設定タブ内チャネル別の「監視内容」の設定内容)
通報内容：(上下限値超過または復帰時によって下記の内容になります)
　　(上限超過時)　測定値が上限値を超えました
　　(下限超過時)　測定値が下限値を下回りました
　　(範囲内復帰時) 測定値が範囲内に復帰しました
測定値　：通報メール送信時の測定値
上限値　：通報メール送信時の上限値または下限値
(下限値)

６.２ 定期メール

ＦＡＳＴ専用ソフトでの接続設定タブ内の「送信パターン」の設定が「不要」以外に設定されているとき、設定された周期で定期メールを送信します。
定期メール送信時、内蔵メモリに未送信のに測定データがあれば、添付ファイルとして送信します。
定期メールの内容は、以下の通りです。

送信日時：(送信を開始した日時)
設置場所：(ＦＡＳＴ専用ソフトでのメール設定タブ内「設置場所名」の設定内容)
シリアル No：(英数字８文字の本体シリアル No)
送信名　：(ＦＡＳＴ専用ソフトでのメール設定タブ内「定期メッセージ」の設定内容)
測定データ：(送信日時直近の測定データ)

添付ファイル名：YYYYMMDDHHNNSS.CSV（送信を開始した日時）
測定データについては、「６．４　データフォーマット」を参照ください。

6.3 テストメール

ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔが測定モードで動作中に、ＳＥＴボタンを３秒以上押し続けたときに送信されるテストメールが送信されます。
テストメールの内容は、以下の通りです。

送信日時：（送信を開始した日時）
設置場所：（ＦＡＳＴ専用ソフトでのメール設定タブ内「設置場所名」の設定内容）
シリアル No：（英数字８文字の本体シリアル No）
送信名　：（ＦＡＳＴ専用ソフトでのメール設定タブ内「テストメッセージ」の設定内容）

6.4 データフォーマット

測定データの基本フォーマットは、測定番号、測定日、測定時刻、冷接点補償温度、電源電圧、データ１、・・・・、データＮ で各項目はカンマで区切られています。
添付ファイルについても、同様の内容になります。

- 測定番号　　…６桁の数字（000001～999999）
- 測定日　　…”YYYY/MM/DD”（年４桁/月２桁/日２桁、” ”での括りあり）
- 測定時刻　　…”HH:NN:SS”（時２桁:分２桁:秒２桁、” ”での括りあり）
- 冷接点補償温度　…最大８桁の数値
  （FAST-Multi または熱電対タイプの FAST のときのみ）
- 電源電圧　　…最大８桁の数値
- データ１～Ｎ　…最大８桁の数値

仕様

■ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔ専用仕様

《通報機能》	
監視間隔	１秒
通報判定タイミング	監視時：監視間隔（１秒）による測定時に判定する 測定時：測定間隔として設定された時間間隔での測定時に判定する
監視点数	最大で１０点（接点・アナログの組合せ　８点／パルス　２点） ※監視点数は機種タイプにより異なる
通報条件	接　　点：検出時(ＯＮ)／復帰時(ＯＦＦ)　〔正論理／負論理選択〕 アナログ：下限値超過時／復帰時および上限値超過時／復帰時 ※チャネル毎に設定可能
確定時間	０～３６００秒 ※チャネル毎に設定可能
メール通報先	６アドレス
通報内容	メール件名、監視内容、通報内容を日本語で設定可能
測定データ送信間隔	周期(時分設定)　　：１分～９９時間５９分 毎日(時刻指定)　　：００時００分～２３時５９分 毎週(曜日・時刻指定)　：曜日・００時００分～２３時５９分 毎月(日にち・時刻指定)：日にち・００時００分～２３時５９分 ※不要に設定した場合は、通報時以外の測定データ送信は行わない
《通信機能》	
実装プロトコル	PPP, UDP/IP, TCP/IP, SMTP, DNSｸﾗｲｱﾝﾄ
対応通信方式	メール方式　：ＮＴＴドコモ mopeaUなどDoPa, FOMA対応のﾌﾟﾛﾊﾞｲﾀﾞ ＫＤＤＩ　　CDMA 1xに対応したﾌﾟﾛﾊﾞｲﾀﾞ ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ電工ｲﾝﾌｫﾒｰｼｮﾝｼｽﾃﾑｽﾞ　ﾗﾋﾞｷｬｽ(ﾌﾟﾗﾝA)
対応通信アダプタ	携帯通信網　：ＮＴＴドコモ　DoPa Mobile Ark FOMAﾕﾋﾞｷﾀｽﾓｼﾞｭｰﾙ専用ｱﾀﾞﾌﾟﾀｾｯﾄ ＫＤＤＩ　　D2-K's1EL(安川情報システム社製) 公衆回線網　：各社アナログモデム
《注意事項》	
標準仕様のFASTシリーズとの相違点	ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔでは、風向風速用の演算テーブルは各1CHずつになります。

ＦＡＳＴ－Ｒｅｐｏｒｔ（通報機能対応バージョン）
補足説明書

株式会社M.C.S
〒060-0063 札幌市中央区南3条西8丁目7－4 遠藤ビル5F
TEL(011)596-0201 FAX(011)596-0234
URL http://www.mcs-fs.com E-mail info@mcs-fs.com